ファッションビジネスとSDGs　持続可能な産業をめざして

ともに社会・環境問題の改善へ

未来にバトンを渡す

――できるところから始める。

山本　大切にしようと思う心が大切だと思っています。僕たちは色々な自治体や学校に出向き、子供たちに環境問題を教えながら傘を組み立てるワークショップをしています。子供たちには自分が気に入ったものを選択し、それを長く使ってもらう気持ちを根付かせたいなと思います。この活動を続ければ今の社会課題を若干でも解決できると考えています。

小池　僕たちもじわじわとですけれど、未来の子供たちにバトンを渡すために身近なところからやっていくしかないなと思っています。子供服を作っている時に、どうしても子供の顔が浮かぶんですよ。このまま社会や環境の問題が深刻になっていけば、デザイナーになりたい、傘を作りたいという子供たちの活躍の場をなくすことにもなる。教育でいえば、遠い国の子供たちがご飯も食べられない横で自分たちが着ている服の原料である綿が栽培されている事実もあるわけじゃないですか。そういうことを伝えていくだけでも変わっていく。

山本　中国で人がスモッグを吸いながら傘を一生懸命作っているんですよね。それを日本の子供たちに教えるとすごくびっくりする。こんな所で、ぽいぽい捨てられちゃうような傘が作られているのって。

川島　物がどういう環境で作られているかに関心を持つことで視野が広がっていくことってものすごく大事だと思う。私はアニマルライツ（※）の問題がショックだったのですが、人間が動物に暴力をふるうっていうのは人種差別にもつながるんじゃないかなって。

小池　それでいうと、ブランドを立ち上げた時からジェンダーとの兼ね合いというのを掲げています。もともとニュートラルなデザインが好きで取り入れているんですけど、コロナ下で考え方がアップグレードしていて、例えば、自分たちの顧客カードの性別欄をなくしました。色々な意味での差別をフラットにするために、洋服屋としてできる一歩って何かを日頃からディスカッションしていますね。

――服はジェンダーの問題にも責任がある。

長尾　視覚からの情報が8割っていうじゃないですか。なので、洋服がジェンダーへの考え方の役割というか、負う責任って大きいなと思っています。それがうちは子供服なのでなおさらです。

川島　ファッションって着るものとして伝えやすいですよね。

長尾　性的マイノリティーの子は全体の10％はいるといいますが、その子たちも3、4歳くらいから認識があるみたいです。ガールズとボーイズと分けていたら、どこかで傷ついている子がいるはず。ファッション業界としてジェンダーの問題も同じくらい取り組んでいかないといけないなと思っています。

小池　最近では福袋も変えたんです。取引先から福袋を男の子用と女の子用で作って下さいってオファーがいまだに来るんです。それが違うなって。LGBTQ（性的少数者）の当事者の方とも相談して、可愛いデザインをスイートに、かっこいい系の服をクールにしました。

川島　性別ではなくてテイスト別で分けるっていいですね。女の子でもクールな洋服を着ている子もいるし、そこはあまり関係ないですよね。

小池　ベビー服とかも作るので、ピンクの色出しも偏らないようにしています。ちょっとした意識の積み重ねで、文化って変わっていく気がしています。

全て再生可能なプラスチックで一切金属を使わない循環型傘「＋TIC」（プラスチック）を提案

■サエラ　1991年設立。自社企画商品の製造販売を百貨店中心に開始。98年に生産管理体制を強化するため、香港にサエラインターナショナルを設立。耐久性ビニール傘「エバーイオン」の製造にあたり中国に工場を建て、販売を始めた。17年に全て再生可能なプラスチックで一切金属を使わない循環型傘「＋TIC」（プラスチック）の製造販売を始めた。

「洋服を通して何か感じてほしい」と小池さん

小池直人（こいけ・なおと）さん
アーチ代表兼デザイナー。ジム、トゥモローランドでメンズデザイナーを経験。その後、フリーランスのデザイナーとして多数のアパレルディレクション、リブランディングに携わり、2012年アーチ＆ラインをスタート。

選んでもらう知恵を

――改めて今求められていることは。

山本　それぞれがグローバルの中での社会的ニーズを俯瞰した目で見ないといけないと思っています。未来や社会において会社がどう貢献できるのか。今の自分たちの経営基盤になっているものをどういうふうに循環させていくかを考えたら、おのずとわかってくるはずです。

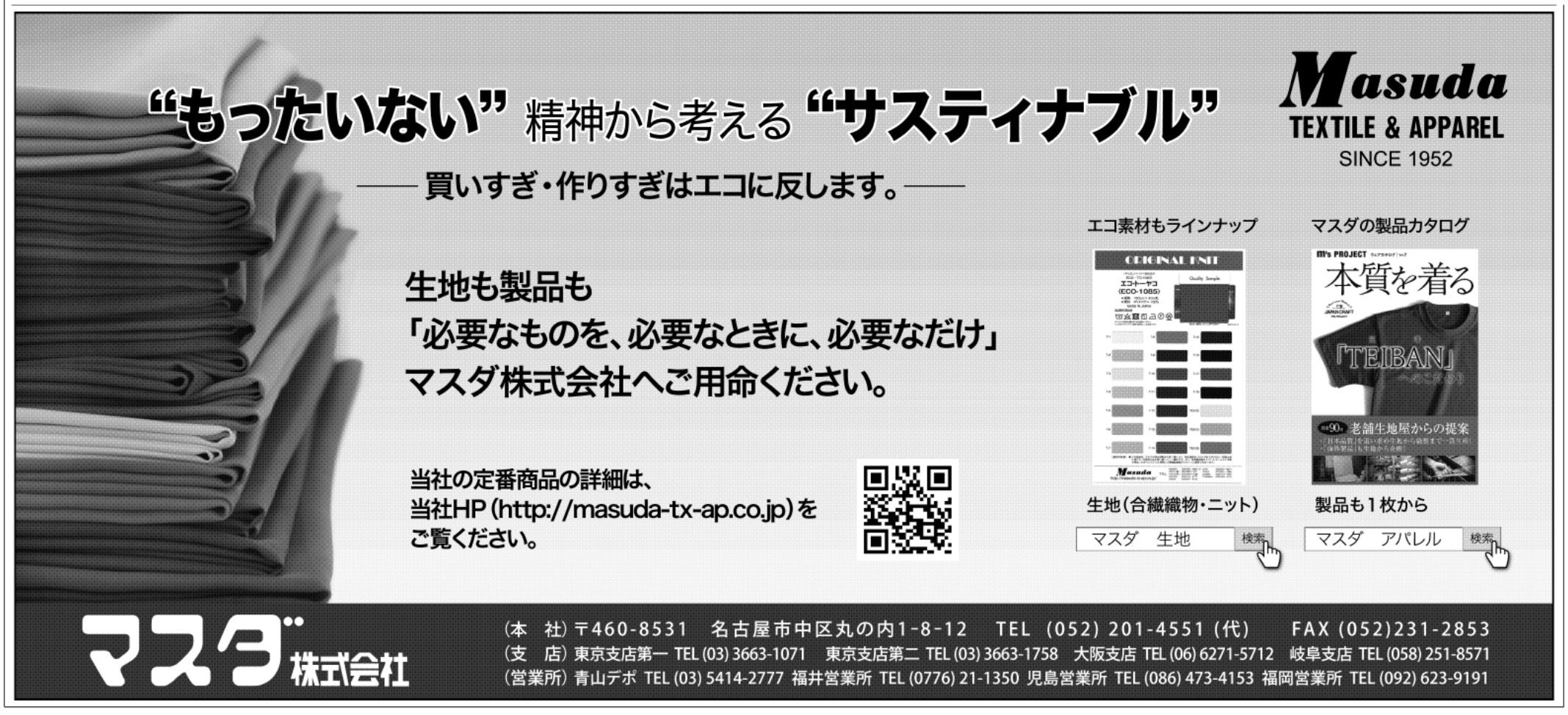
過剰な消費は縮小されるべきですが、経済は消費が肝。消費を減らしたなかで自分たちの商品を選んでもらう知恵が必要です。お客様に純粋に良い商品なんだと認めてもらい、社会に対する思いをしっかり説明していく。多くの人たちが支持してくれなければ何も変わりません。

※アニマルライツ　動物の権利。動物が人間から危害を受けず、なるべく自然のままに生きる権利があるとの考え方や、それを擁護する運動。

「知った上で悩みながら服を作る」と長尾さん

長尾麻友子（ながお・まゆこ）さん
アーチデザイナー兼生産管理。イッセイミヤケなどで生産管理を経験。2013年アーチ入社。

■アーチ　2013年設立。22年でブランドは立ち上げ10周年。「アーチ＆ライン」で「ジェンダーレス、タイムレス、エイジレスな服」をテーマにベビーから大人サイズまでを直営3店と国内外の専門店で販売。30年までに環境配慮素材100％を目指す。ブランド公式インスタグラムで環境やジェンダーの問題を話す「アーチ環境サークル」を発足。

コロナ下で「アーチ環境サークル」を発足。最近ではビーガンを実践する子供たちとのトークを発信

※「素材」「循環」をテーマに座談会の続きを1面で1月中に連載予定です